

地域間交流支援(RIT)事業

中国南京・瀋陽地域との産学官交流・連携

メディカルバレープロジェクトでは、平成15年度から17年度までの3年間、ジェトロ(日本貿易振興機構)と協働し、ドイツ・バイオコンバレーやメディコンバレーなどの海外バイオ関連産業クラスターとの企業間、大学間の交流・連携を進めてきました。

また、平成17年度からは中国にも訪問団の派遣を開始。今年度はジェトロの地域間交流支援(RIT)事業に採択され、ミッション派遣や有力企業招へいなどのプログラムを活用して、企業間の技術提携、大学間の共同研究や人材交流、行政間の連携体制構築などに向けて、中国南京・瀋陽地域との交流が本格的に始まりました。

ミッション団派遣

平成19年10月17日(水)～24日(水)にかけて、企業16名、大学5名、行政等6名(合計27名)からなるミッション団を、中国南京・瀋陽地域に派遣しました。両地域において、市政府への表敬訪問、交流会・商談会の開催、企業訪問、薬系や生物資源関係などの大学

や病院訪問、両市の対外貿易経済合作局や食品薬品监督管理局など行政訪問を行い、今後の連携に向けて足掛かりを築くことが出来ました。



■南京交流会

スケジュール

10月17日(水)	南京空港着		
18日(木)	行政訪問(南京市政府) 企業訪問(南京化学工業有限公司、南京博健科技有限公司、南京金芭露化粧品有限公司)	全体会(南京市・官民交流会) 大学訪問(南京工業大学)	
19日(金)	商談会・企業訪問(商談会、南京藍白化工有限公司、南京和業輸入貿易有限公司)	大学訪問(南京医科大学、南京審計学院、南京師範大学)	行政訪問(南京市対外貿易経済合作局、南京市食品薬品监督管理局、江蘇省食品薬品监督管理局)
22日(月)	行政訪問(瀋陽市政府) 企業訪問(アステラス製薬有限公司、瀋陽紅旗製薬有限公司)	全体会(瀋陽薬学会交流会・講演) 大学訪問(瀋陽薬科大学、遼寧省人民医院)	
23日(火)	商談会・企業訪問(商談会、瀋陽協成集団、瀋陽市試五場、瀋陽岳化化工有限公司、瀋陽市黎明医療器械有限公司)	大学訪問(中国医科大学、瀋陽農業大学)	行政訪問(瀋陽薬学会、瀋陽市食品薬品监督管理局、瀋陽市対外貿易経済合作局、遼寧省衛生生物製品研究所、グリーンバレー(瀋陽緑谷生物技術産業有限公司))
24日(水)	北京空港発		

中国企業招へい

続いて、平成20年1月21日(月)～25日(金)にかけて、南京地域1社、瀋陽地域3社の有力企業を招へいし、商談会や企業訪問により県内企業との技術提携・業務提携に向けた情報交換を行うと共に、大学関係者も参加して交流会を開催しました。また、今回はジェトロの外国企業誘致地域支援事業とタイアップして、ドイツ・デンマークの医療・健康・福祉関連企業3社を招へいしており、先に交流・連携を進めるドイツ・バイオコンバレーから1社が参加しました。



■三重県の政策紹介を聴く招へい者

スケジュール

1月21日(月)	関西国際空港到着
22日(火)	午前 三重県の政策紹介 午後 オープニングセレモニー 企業プレゼンテーション・商談会 海外企業との交流会
23日(水)	午前 知事表敬訪問 企業訪問(中外医薬生産機、韓ミルボン)
24日(木)	午前 企業訪問(ニプロファーマ機、万協製薬機) 大学訪問(三重大学)
25日(金)	関西国際空港発

メディカルバレー通信

MEDICAL VALLEY PRESS

2008春号
VOL.12

地域社会に開かれた三重県立看護大学とメディカルバレー



ごあいさつ

三重県立看護大学学長
村本 淳子

三重県のメディカルバレープロジェクトは、産学官民が一体となって次代を担う「医療・健康・福祉」産業の振興を図って、活力ある地域づくりをめざす「みえメディカルバレー構想」を推進すること、つまり人間にとってもっとも大切な「健康」に関する総合プロジェクトですから、今まさに、社会からもっとも期待されていることであると思います。

急激な少子高齢化が進んでいる中であって、人々の健康の維持・増進をどのように進めていったらいいか。それはいかにそれぞれの職種が自らの持っている能力を出し合い、互いに協力・連携して、その役割を人々の健康維持・増進のために効果的に発揮していくことができるかを考えていくことだと思います。一方、健康生活を送る側の人々は、主体的に自らの健康をコントロールし、改善することができるようなプロセスを経ることができるような、つまり人々が自己のヘルスプロモーションの促進者になり得ることができるような行動が今後、期待されるでしょう。

本学は、県民が生涯を通じて安心して暮らすことができるように、そして県民に質の高い看護サービスを提供できることをめざして平成9年(1997年)に看護の単科大学として開学しました。そして開学時から地域社会に開かれた大学をめざして、大学に附属地域交流研究センターを設置し、学生の教育や教員の研究のみならず、地域住民に対して教員の持っている教育・研究・実践能力を生かし、「健康」に対する実践の支援を行ってまいりました。平成21年4月から本学もいよいよ地方独立行政法人化されることとなります。これまで以上に、地域住民のためのヘルスシステムの構築・発展にチャレンジしていくことが求められてきます。

先にも述べましたが、21世紀の健康を考えたときのキーワードは、「ヘルスプロモーション」で、この概念を取り入れた健康のあり方、支援の方法をさらに構築・発展させていくことが重要です。ヘルスプロモーションの活動の主体は地域住民にあります。そしてその活動は住民のスキルを向上させることによりエンパワーメントし、アドボカシーを高めることです。この概念を重要視し、メディカルバレープロジェクトと、いい形での連携をとりつつ、発展させていきたいと考えております。

産学官による共同研究や研究開発を支援します

メディカルバレープロジェクトでは、産学官による共同研究や研究開発を促進するため、企業を対象とした共同研究の補助や研究者を対象とした委託研究を行っています。平成20年度もこれまでと同様4月に募集を行う予定です。皆様、ぜひご応募下さい。

※平成19年度採択状況は本紙4-5頁の「メディカルバレー推進事業の進捗状況」参照。3月下旬になりましたら、平成20年度公募情報を掲載しますのでメディカルバレーHP(<http://www.mvp.pref.mie.jp>)において、詳細をご覧ください。

お問い合わせ 三重県健康福祉部業務食品室 電話:059-224-2331
メディカルバレー推進グループ FAX:059-224-2344



編集後記

メディカルバレー事業を開始し、6年が経過しようとしています。県の主導で始まった事業も、大学、産業界、市町、NPO等それぞれが自立して事業を進めていく体制も構築され、それらの事業を産学官民で支えあっているという気運は他の組織ではみられない、メディカルバレーのすばらしい一面だと思います。

念願の薬学部も今春には鈴鹿に、三重大学伊賀研究拠点も来年度には開設され、ますます産学連携がここ三重の地で盛んになることを期待しています。

この4月からは特定健診・保健制度がはじまり、健康産業分野の需要拡大も予想されています。

このような状況のなか、今後メディカルバレーをどのように展開していくかを現在検討しており、まもなく「第2期メディカルバレー構想」として皆様に公表させていただきます。

今後とも皆様のご参加、ご協力のもとメディカルバレーを飛躍させていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。(gao)

発行 三重県健康福祉部業務食品室 メディカルバレー推進グループ
〒514-8570 三重県津市広明町13番地
TEL:059-224-2331 FAX:059-224-2344
e-mail:yakumus@pref.mie.jp

メディカルバレープロジェクトホームページ
<http://www.mvp.pref.mie.jp/>

みえ福祉用具産業支援ネットワークホームページ
<http://www.fynet.pref.mie.jp/>

医薬品安全情報提供システムホームページ
<http://www.medsafe.pref.mie.jp/>

三重県薬事工業情報提供システム(PHIS)ホームページ
<http://www.piis.pref.mie.jp/>